

第 159 回 山行記 磐梯山(1816m) & 五色沼

2021年7月26日(月)～27日(火)

京成電車ダイヤ改正に伴い出発を 20 分遅らせた初めての山行。

コロナ感染拡大が心配されたが、バスの一人 2 席利用やマスクの着用、消毒液の利用、飲酒などの制限等、万全なコロナ対策の徹底を参加者にお願いして催行した。



新会員お二人を含めた総勢 12 名を乗せたマイクロバスは谷津船橋 IC から東北道を走り、途中佐野 SA と那須高原 SA で休憩し、郡山 JCT ⇒ 磐越道 ⇒ 猪苗代磐梯高原 IC ⇒ 国道 115 号・459 号から裏磐梯高原へと渋滞もなく順調に進む。車窓から磐梯山が見え隠れし始めると、台風接近に伴う雲の動きが気になったが、八方台登山口到着時(10:35)には申し分のない天気。



準備体操後(10:54)、12名のパーティーは元気に列を組んで出発。

15分位歩き始めたところで硫黄の臭いが漂う中の湯へ。

ここは、20年前には温泉場として利用されており、今は廃屋になっているが温泉は湧き出ているようだ。

ゆるやかな上りの林道を進み、登山道へと道が切り替わる。

足元の少し前を見つめながら無心で足を前に出す。可憐に咲いている ウスユキ草 の花に癒されながら、吹きでる汗をぬぐう。



ひらけたの景色が登山道の所々に現れ、一息つきながら弘法清水へ到着(12:40)。弘法大師様へ手を合わせるより先に、先ずは冷たい湧き水で喉を潤す(笑 & 喜)。とても美味しい清水で“元気”をもらう。

眼下に檜原湖を眺め、赤茶けた土がむき出しの櫛ヶ峰の向こうには裏磐梯の景色が広がっている。湖沼群は勿論、“安達太良山”、“吾妻連峰”、そして遠くに“飯豊連峰”の峰々が、晴れ上がった青空に確認できる。反対側には磐梯山の頂上も。

休憩に絶好の場所で昼食を摂った後は山頂までの急登を一機に登る。20分程で到着し記念撮影。更に岩場を登り三角点のある頂上に到着。雲で猪苗代湖は眺められなかったが、時々、裏磐梯の景色が眺められる。岩陰に可憐に咲残っていた一株の バンダイクワガタ を見つけれられたのは最高のプレゼントか、世界で磐梯山にしか見られない磐梯山特産の高山植物ですから。



30分程山頂を楽しみ、弘法清水まで下りる(14:40)。

下りはお花畑コースを選択し、標高 1600m に広がるお花畑を眺めながら整備された遊歩道を下りる。途中で登り時の山道に戻り、中の湯を経由して八方台登山口へ。全員無事に下山(15:50)。



迎へのマイクロバスに乗り、今日の宿 国民宿舎「さぎの湯」へ向かう。宿に着くとすぐに温泉で疲れた身体を癒し、夕食の膳を美味しく戴き山里での静かな夜を楽しむ。

翌朝、朝食(6:30)を摂りながら台風と雨の状況をチェック。夜中に降っていた雨も上がったので、五色沼自然探勝路をトレッキングしてから道の駅でのお土産購入、そして帰宅する事とした。

7:30 宿を出発。約1時間半の五色沼トレッキングを楽しむ。沼巡りの途中、ポツポツと雨が降り始めたが、藍色、緑色、瑠璃色と様々な色が織りなす五色沼の風景を満喫できた。

9:35 物産館にて迎へのバスに乗車、道の駅へ移動(10:00)。

50分程のお土産選びや軽食やラーメン等軽食を楽しんだ後、バスは那須高原SA、羽生SAで休憩をし、14:57に谷津船橋ICに無事帰着。大変お疲れ様でした。

台風予想により直前のプラン変更もありましたが、台風の直撃を受ける事もなく全員無事に山行を終える事ができ、また、新入会員のお二人もすっかり打ち解けることができました。皆さんのご協力に感謝です。

どうぞ、コロナ感染の拡大や熱中症に注意怠る事無く、お身体ご自愛下さい。

習志野山楽会2班 ひとみ記

【番外編】

◆ 福島県民謡「会津磐梯山」

エンヤ～ 会津磐梯山は 宝の山よ
笹に黄金が エーマタ なり下がる ♪

エンヤ～ 会津磐梯山に 振袖着せて
奈良の大仏 エーマタ 嫁に取る ♪

Q：民謡「会津磐梯山」で謳われる「宝の山」とは？

A：鉱山物質に恵まれた会津では多量に金が採れ、金山の前身は朱の産地とする研究者がいる。

朱の原料となる辰砂(しんしゃ)は、古くから朱砂(しゅしゃ)とも言われた。いつのまにか「しゅしゃ」が「ささ」に変化した。

つまり、朱の下には黄金がたんまりと埋まっている(=黄金がなり下がる)。

と解釈できる説があるそうです。

◆ さぎの湯

この山行で泊まった宿「さぎの湯」にプロアドベンチャーの田中陽希さん(※)も2回程利用されたとか。もちろん、私達のバス移動したところは歩いて！

※ 田中陽希さん

冒険家。2014年、乗り物を使わず徒歩やシーカヤックのみで「日本百名山」を踏破する「ひと筆書きプロジェクト」を開始。222日かけて全ての山の縦断を成功させた。翌年には「二百名山」の登頂も完遂した。現在「三百名山」登頂にチャレンジ中との事。